

平成17年度DAA交流会開催

「活力ある高齢社会」実現の一助とするため、当財団が設立した「ダイヤ・アクティブ・エイジング (DAA)」は、賛助会員会社の退職者が主体的に運営している7つのグループからなり、日頃から自主的で積極的な社会参加・社会貢献活動を続けています。去る平成18年1月24日に開催 (於：文京区民センター) されたDAA交流会において、「我がグループのいきいき活動」というテーマで各グループの特色ある活動が紹介されましたので、本号ではそのエッセンスを報告します。

個性あるグループ活動

DAA交流会は、普段顔を合わせない他のグループの会員との親睦・交流を図るとともに、その活動について理解を深め、自らの活動に資することを目的としています。DAA全体の広報紙であるDAAニュースや、全体に関わる協議や連絡の場であるDAA運営委員会での各グループからの報告が、異なるグループの情報を会員が得る主な手段であり、交流会は年に一度、会員が一堂に会してじかに接する唯一の機会です。

当日は会員総数の半数に近い119名が参加し、初めての試みである財団からの会員数の推移等に関するデータ紹介と、各グループの一般的な活動の分析報告に引き続き、各グループからのオーバーヘッドプロジェクターやパソコン (パワーポイント) を駆使した多彩な発表がありました。以下は各グループの発表の概略です。

●高齢者のための介護や医療制度の調査研究活動

「ダイヤ池袋 (東京都北部、埼玉県南部居住者グループ)」からは、今年の介護保険制度改正や昨年発表された「医療制度改革大綱」について、その要点や、改正・改革に当たっての問題点等が詳しく紹介されました。最後に、「自らの問題として高齢者がどのような対応や検討をすべきか」という視点から提言があり、福祉・医療や経済的な対処のみならず、今後の人生を積極的に生きるために「自ら生き様を決める」ことが重要と結論されました。

●老人ホームへの「出前囲碁」

囲碁の趣味を縁に集まった「ダイヤネット囲碁会」では、2カ所の老人ホームで、入居者や地域の高齢者の囲碁のお相手をするというボランティア活動を続けています。当初は「趣味である囲碁の力を活かして」と考えていましたが、今では入居者に楽しんでもらうために、囲碁をご存じない方には五目並べ、また初心者



発表資料のパネル展示

である女性会員が入居者から逆に教えてもらったり、さらには会員がピアノ演奏、トランプマジックまで披露するという幅広い活動について報告がありました。

●みんなで歌う会

「ダイヤ小田急線友会 (小田急沿線居住者グループ)」では、グループ内に同好会的な枠組みの「サークル」が多くあります。サークルにはハイキングやゴルフといったスポーツ中心のものがあったり、過去には「多摩川をきれいにする会」という清掃ボランティア的な活動もありました。そのサークルの中に「みんなで歌う会」という、往時の歌声喫茶を思わせるような活動があります。DAAは大半の会員が男性ですが、数少ない女性会員が中心となって、開催場所であるレストランの客や地域の方々も巻き込んで作り上げた活動です。昨年には、このサークルのメンバーが北京や上海へ行き、中国の方と一緒に歌を楽しんで国際親善・交流を果たしました。

●こどもの科学・社会教室

社会問題となっている子供の理科ばなれを改善しようと、「ダイヤかながわ交流会 (神奈川県居住者グループ)」が立ち上げた「こどもの科学・社会教室」は、環境・宇宙・海洋・電気・光学・生命の6教室を、こ

の1年半の間に延べ28回開催し、約700人の児童と約230名の保護者・来賓の参加をみました。同教室は、受講者からの高い評価や、行政・助成団体の理解を得て、当初の三菱みなとみらい技術館等での固定教室から、現在では各地区のコミュニティハウスや学童保育への「出前教室」中心の活動に変わりつつあります。課題であった生徒の確保も容易になり、その余勢を駆って、同様の活動をしている他の組織との交流や、新しい分野の教室の拡大にも着手しているとの報告がありました。

●都会の園児との世代間交流

「ダイヤさわやかネット（東京都西部、山手線沿線居住者グループ）」では、多くの社会参加活動を展開していますが、中でも幼稚園児との世代間交流に力を入れています。都会の幼稚園では、園児のみならず、先生も年若く、高齢者との交流や、その経験・知識に接することも、大変稀な状況です。そこで、園児や先生、時には保護者にも昔ながらの縁日や焼き芋などの体験をさせて、喜んでもらっています。参加した会員は、園児が一生懸命書いたお礼状や、ありがとうの言葉に感動していました。

●「終の住みか」調査研究活動

高齢者にとって、終の住みかをどうするかは、最大の関心事といってもよいかもしれません。「ダイヤ常磐（常磐線沿線居住者グループ）」では現在、居住地域である千葉県北部、茨城県南部の高齢者介護施設や老人ホーム28施設の調査を進めています。健康なうちに早めの検討・選択を行うこと、実際に目で見て判断すること、調査を通じて地域社会への関心を高めることを目的として取り組んでいると発表があり、平成18年4月には調査報告書を出すとのことでした。

●「おやじの料理教室」

男性高齢者にとっては弱点とでもいうべき「食事作り」をマスターして、奥方に疎ましく思われないようにと思いついたダイヤ総・京会（総武線・京葉線沿線居住者グループ）は、趣味と実益を兼ねて始めた料理教室について報告しました。最後はやはり、お酒の取り持つ縁が会員の結束に役立ったという報告でもありました。

交流会の成果

今回の「交流会」では、おのおののグループの特色ある活動を発表・紹介することによって、個々の活動や各グループのあり方について、会員相互の理解を深めるとともに、各グループの雰囲気や感性なども十分に伝わったものと思われまます。

この交流会での発表準備や当日の運営は、ほぼDAA会員の手で行われ、まさにDAA一丸となった活動でした。また、交流会後に開催された懇親会にも多くの会員が引き続き参加し、発表内容や話ぶりを種に話の花が咲きました。交流会の大きな目的である、異なるグループ間の親睦にも大きな効果がありました。

（西村芳貢）



交流会の風景